



■この広報紙にあなたが写って
いましたら、総務課企画係(☎82-
4111内線 215)へご連絡くださ
い。写真をさしあげます。

お誕生日おめでとう
&
わが家のアイドル

申し込みは毎月10日まで(3歳まで)

マスクマンが大好きな祐ちゃん、
毎日、元気がいっぱい遊んでいま
す。弟とも大の仲好し。これから
も元気にすくすくたくましく子に
なってくれば…と願ってお母さん。



ほんだ ゆうき
本田祐貴くん
(和納12区・肥後志さんの長男)
昭和61年4月29日生まれ

三人兄弟の末っ子のせい、お
兄ちゃんやお姉ちゃんに負けない
くらゐ、ちゃんちゃん今口この頃です。
それにツツくんはきれいな好き。将
来は、誰にも負けない元気な子に
なっしてほしいですわね…お母さん。



なんば なみ
難波努くん
(栄・正藤さんの二男)
昭和61年6月18日生まれ



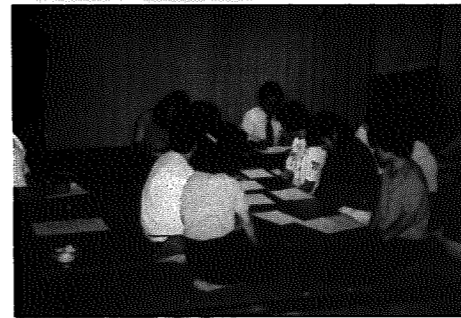
歌やゲームで和気あいあい

先月七日、間瀬小学校で毎年恒例の「祖
父母・孫七々ふれあいの会」が開かれまし
た。寿学級の人たちは一年ぶりの再会と
あってどの顔も嬉しそう。歌やゲームで楽
しんだり、竹トンボのプレゼントがあつた
りと賑やか。そして最後は昼食を食べなが
ら心温まる交流を存分に楽しみました。



熱心に意見交換

先月二日公民館講堂で第六回芸能発表
会が開かれました。この日は民謡クラブ
や愛好会など六団体約百名が参加して行
われ、日ごろの練習してきた成果を発表
できる場とあって、参加者たちは自慢の
歌や踊りを存分に披露していました。



青少年育成村民会議では、ことしも村保護
司や小中学校、PTAなどと共催で地域懇談
会を開催しました。連日各会場とも、学校と
は違った雰囲気なかで様々な意見交換がな
され、子どもたちに対する問題や要望などが
時間を忘れ真剣に話し合われていました。

地域懇談会

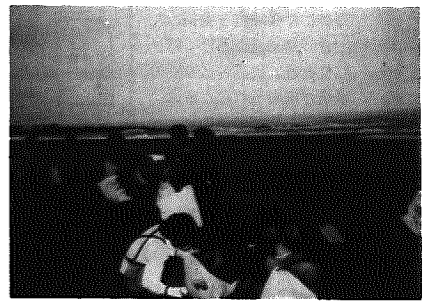
熱い声援が飛びかった女子ソフトボール大会。村内
事業所や各集落から9チームが参加し、先月9日村民
球場と和小グラウンドで、熱戦がくりひろげられまし
た。結果は次のとおりです。①和納レディス②末広ナ
インズ③間瀬女子ソフト 敢闘賞和納7区

真夏のプレ-ボール
女子ソフトボール大会



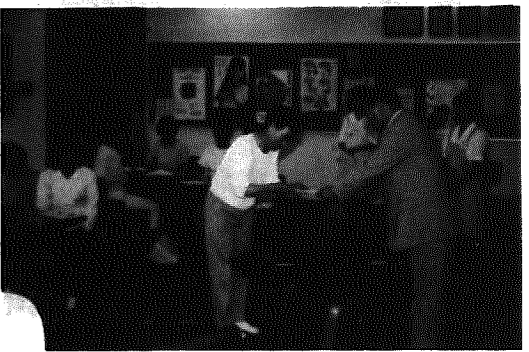
心地よいボランティア

村商工会婦人部(会長山田喜代子さ
ん)では、先月二日部員約三十名が参
加して間瀬下山海岸の浜清掃を行いました。
このボランティアは同婦人部が
毎年行っているもので、この日も朝五
時三十分集合。心地よい潮風の吹く
中、浜清掃に汗を流していました。



「家庭看護教室閉講式」

寝たきり者の看護や、食餌療法を学んだ
「家庭看護教室」の閉講式が先月十二日保健
センターで開催されました。この閉講式に
は四回の講習を終了した四十人が参加して
行われ、これまで学んだ講習についてのお
さらしい講演などを聞いた後、巻保健所長
から修了証書がそれぞれに手渡されました。



いぬひと

No.

22

竹内虎五郎さん(和納五区)

京都・祇園の流れをくみ祭り囃子を皮
切りに、伝統芸能の「棒遣い」や神輿行
列が繰り出し、伝統の重みを感じる
和納十五夜祭り。その祭りのフィナーレ
を飾るのが、八幡神社境内で華麗に繰り
広げられる仕掛花火に草花火。この花火
見たさに毎年大勢の見物人が詰めかけて
きます。

そこで、今月号の「この人」は、この
見事な仕掛花火や草花火の準備から打ち
上げまでを一手にまかせるのが花火方の人
たちで、その代表を務める竹内虎五郎さ
ん(和納五区・58歳)をご紹介します。
竹内さんは、この花火方(仕掛の趣向
から準備、打ち上げまでをやる人たち)
をやりはじめてもう三十年。親父の跡を
継いで始めたという親子二代にわたる
花火師です。「この花火方になったきつ
かけは、親父もやっていた関係で仕方な
くはじめました。でも、何んだかんだで
もう三十年もやっていますよ」と花火方
になったきっかけを話す竹内さん(笑)

花火方をやって30年の竹内さん

ところで、この豪快かつ華やかに繰り

広げられる花火。その種類は「三社灯籠」
「御神灯」「パレン」「国旗」「露払い」
などと花火方独自で考え出した仕掛は数
十種類もあるといわれています。それ以前は、
この仕掛や草花火を竹内さんら花火方の
手で火薬の調合から仕掛作りまでを全て
行っていたといわれています。

「昔は、花火小屋といった倉が5、6ヶ
所もあり、そこで花火の調合などをやっ
ていました。この火薬の調合が一番難か
しく、ちよつとした配合の違いで花火の
色が変わってきます。それに、試し上げの時
などによくヤケドもしましたね。それに、
最近規制が厳しくなってきましたので、
火薬の調合などはほとんど専門業者のと
ころでやっています。でも、一番肝心な
仕掛の組立て、配列なんかは昔同様この
花火方の人たちで取り仕切っています」
と話す竹内さん。そんな昔ながらの伝統
技法を守り続ける花火方七人衆。そのす
ばらしい腕をかわれ、近隣町村をはじめ
他県にも花火の打上げを頼まれて行くこ
ともあるといわれています。

「以前は京都や大阪まで打上げに行っ
たこともありました。それに、最近でも
吉田や弥彦、間瀬などへも応援に行きま
す。今までいろんな花火を見ましたが、
でも、やっぱり和納の花火が一番ですね」
と話す。そして、和納の仕掛花火につい
てこうも語ります。今は、打上げる量も多
く、それなりに見どころもあります。でも、

情緒や迫力に欠けてきました。それも仕
方がないことなんです。でも、もともと神社
境内ということもあって場所も狭く、そ
れに最近は見物人が大勢来られ危険です
ので、パレンや打上げなどが仕掛けられ
ずちよつと寂しいですね。その点、昔は
打上げる数は少なかつたものの情緒や迫
力がありましたよ」と話す竹内さん。それ
に竹内さんらのもう一つの悩みは、花火
方になる後継者がいないこと。ですから
いまいる七人の花火師たちでこの伝統花
火を守り続けています。「この伝統ある仕
掛、草花火はなくせません。私も出来る限
り続けていこうと思います」と花火に対す
る情熱が人一倍感じられる竹内さんでした。



華麗な花火を見せてくれる立役者、花火方の皆さん